

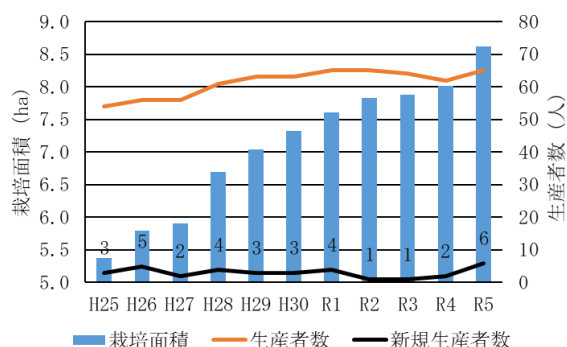
アスパラガス生産の拡大と新規生産者支援

■ 綾坂地区アスパラガス部会 ■

(中讃農業改良普及センター 平井秀明)

●対象の概要

綾坂地区(綾川町・坂出市)では約8.6haの栽培面積で、66名の生産者によりアスパラガス栽培が行われている。当地区では綾川町を中心に1～2月の高単価な時期を狙った出荷を行うことが特徴であり、香川県内でも特に早い時期から出荷が行われる。また、高齢化により栽培をやめる生産者がいる一方で、近年は有利販売が可能な「さぬきのめざめ」に魅力を感じた若手生産者を中心に新規での栽培を希望する者が増えている。令和5年度は新規生産者6名により約60aでの新たな栽培が開始されるなど、産地全体の栽培面積が拡大しており、今後一層の発展が期待されている。



図ー1 綾坂地区アスパラガス栽培面積と生産者数の推移

●課題を取り上げた理由

綾坂地区ではアスパラガスの新規生産者が増加しており、令和5年度は部会員数の約1割に当たる6名が新たにアスパラガスの栽培を始めた。しかし、部会では生産歴の長い生産者と一緒に研修会等が行われているため、初めてアスパラガスを栽培する新規生産者には理解しにくい内容となっている。また、新規生産者が増えることで、生産者間のつながりが希薄となりつつあり、相談できる相手がいないため、作業や病害虫への対応が遅れるという問題も発生している。

また、アスパラガスの収量を向上させるためには土壌水分環境を良好に保つ水分管理が必

要であるが、高うね栽培ではりん芽部や多くの根が存在するうね内は乾燥しやすく、かん水不足による収量の減少も見られる。

これらの課題を解決し、アスパラガスの生産を拡大し、今後も継続的に産地を発展させていくためには、生産者が自分のほ場状況を把握し、適切に管理できるようにすることが必要である。そこで、普及センターでは新規生産者の早期安定生産に向けた支援と地下水位の「見える化」によるかん水の適正化に取り組んだ。

●普及活動の経過

1 新規生産者の早期安定生産に向けた支援

新規生産者が早期に技術を習得するためには、ベテラン生産者と連携して現地で直接指導し、体験することが重要であると考えた。そこで、JAや部会長などの高い技術を持つ生産者と協力して、新規生産者を対象とした現地講習会を年2回(植付け時期、刈取り時期)開催した。また、お互いのほ場や先輩生産者のほ場を見ながら意見交換をすることで自身の栽培について考える機会を提供するとともに、生産者間のつながりを構築できると考え、新規生産者と共にほ場を巡回した。



栽培ほ場で刈取りを体験

2 地下水位の「見える化」でかん水の適正化

数年前から地下水位の見える化を行うために、普及センターとJAが協力して数件の生産者のほ場の通路に深さ50～60cmの縦穴を掘っていたが、活用方法がわからずに放置される事

例が見られた。そこで、講習会で縦穴の活用方法を周知し、巡回指導の際に実際に縦穴を確認しながらかん水指導を行った。また、巡回時に縦穴の設置状況と要望を調査し、希望者のほ場に縦穴を掘り活用方法を指導することで地下水位の「見える化」と適切なかん水について推進を図った。

●普及活動の成果

1 新規生産者の早期安定生産に向けた支援

現地講習会ではベテラン生産者のアドバイスを受けながら、部会活動で行われている講習会だけでは分からない作業のポイントやコツ、注意点などを学びながら作業を見学・体験することで作業イメージの定着が図られた。また、ベテラン生産者との交流が生まれ、栽培を行っていくうえで疑問に思ったことを相談できる相手ができるなどベテラン生産者と新規生産者のつながりを作る場にもなった。



ベテラン生産者から来年に向けて
収穫の仕方を学ぶ

また、生産者同行でのほ場巡回では、他人のほ場を見学することで、今まで気づかなかった栽培のポイントを発見し、話し合うことで理解を深めることができ、生産者間の横のつながりも構築された。現在では生産者同士が、お互いのほ場を見て生育状況の確認や相談を行うなど、成果が表れてきている。



生産者7名でほ場を巡回し意見を交換

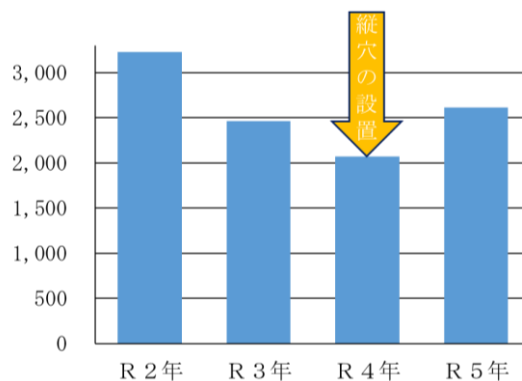
2 地下水位の「見える化」でかん水の適正化

講習会や巡回時に縦穴の活用方法を周知し、設置希望者を募って、順次設置したことで設置件数が前年対比で約1.5倍に増加し、設置率は約6割となった。生産者自身で圃場の大まかな特性を把握できるように縦穴の使用方法的なフローチャートを用いた講習会を行い、あわせて、巡回時に実際に縦穴を使用してかん水指導を行ったことで、生産者が自ら縦穴の水位を確認しながらかん水量を調節し、ほ場に合わせたかん水管理ができるようになった。



縦穴をのぞき込み地下水位を確認

一例ではあるが、令和元年にアスパラガスの定植を行ったK氏の場合、縦穴を利用してかん水量を調節した結果、令和5年産の単収が前年対比で約1.3倍まで回復した。



図ー2 K氏の単収 (kg/10a)

●今後の普及活動の課題

綾坂地区では毎年新しい生産者がアスパラガスの生産を始めるため、引き続き現地講習会などの実践的な技術習得の場や交流の場を提供し、新規生産者の早期安定生産に向けて取り組む。また、綾坂地区の部会員の2割以上を占めるアスパラガスの生産を始めて5年目以下の生産歴の浅い生産者も支援の対象として拡大し、産地として技術力を底上げすることで、アスパラガスの生産を拡大し、継続的な産地の発展に取り組む。